

平成30年5月22日（火）～6月17日（日）

こむろすいうん 小室翠雲—近代の南画—

今回の展示は、当館が所蔵する作品の中から、群馬県館林市出身の南画家小室翠雲の代表作を紹介します。小室翠雲（1874-1945）は、沼田の青木翠山、さらに足利藩の田崎草雲に学びました。明治32(1899)年に上京し、日本美術協会や文展へ出品し受賞を重ねます。その後、文展や帝展の審査員、日本南画院への参加、南画鑑賞会の設立、皇室技芸員となるなど、時代精神が反映した近代南画をめざし尽力しました。

今回の見どころとして、富士山をテーマにしたふたつの作品をご紹介します。富士山は、古くより絵画の画題として多くの作品が描かれてきました。翠雲が崇敬していた師田崎草雲も得意とした画題です。明治期の大作《乾坤第一峰》では、大海を前景に雪を頂く霊峰富士の偉容が金泥を用いて描かれています。《登嶽所見十二題》は、富士登山の体験を12点の絵画と2点の書にまとめた作品で、今回はその中から絵画7点を展示します。信仰の山であった富士山は、明治以降に観光登山が盛んとなります。翠雲一行は、昭和3(1928)年8月下旬に山梨県側の吉田口から登頂し静岡県側の御殿場口へ下山したらしく、「(2)白雲」では、途中まで馬を使って登山した様子が、「(10)石室」では休憩する人々の姿がリアルに描かれています。

これらのほかに、春雨の景を裏箔の技法を使って情趣豊かに描いた《春雨蕭々》、「鳩の子どもは親の鳩がとまっている木の枝の三本下にとまる」という中国のことわざによる《三枝禮》など、翠雲の代表作をどうぞご高覧ください。

No.	作者名	作品名	制作年	技法材質・形状	寸法(縦×横cm)	備考
1	こむろすいうん 小室翠雲	けんこんだいいっぽう 乾坤第一峰	明治43(1910)年	絹本着色・軸装	115.0×201.0	
2	こむろすいうん 小室翠雲	しゅんうしゅうしやう 春雨蕭々	大正9(1920)年	絹本着色・六曲一双屏風	各168.0×373.2	第2回帝展
3	こむろすいうん 小室翠雲	さんすいびづいようぶ 山水図屏風	大正12(1923)年	絹本金地墨画淡彩・六曲一隻屏風	168.8×373.8	
	こむろすいうん 小室翠雲	《とがくしよけんじゅうにだい》より 《登嶽所見十二題》より				第7回日本南画院展 *(6)をのぞく
4		(1) うまが返し 馬返	昭和3(1928)年	紙本墨画淡彩・軸装	45.0×74.0	
5		(2) はくひよう 白雲	昭和3(1928)年	紙本墨画淡彩・軸装	45.0×74.0	
6		(5) うんかい 雲海	昭和3(1928)年	紙本墨画淡彩・軸装	45.0×74.0	
7		(6) ぜつりつ 絶嶺	昭和3(1928)年	紙本墨画淡彩・軸装	45.0×74.0	
8		(9) まんねんゆき 万年雪	昭和3(1928)年	紙本墨画淡彩・軸装	45.0×74.0	
9		(10) いしむろ 石室	昭和3(1928)年	紙本墨画淡彩・軸装	45.0×74.0	
10		(12) ごてんば 御殿場	昭和3(1928)年	紙本墨画淡彩・軸装	45.0×74.0	
11	こむろすいうん 小室翠雲	さんしれい 三枝禮	昭和11(1936)年	紙本着色・軸装	116.0×145.0	第15回日本南画院展
特別展示						
12	いそべそうきゆう 磯部草丘	さんきやう 山峽	昭和27(1952)年	絹本着色・額装	69.0×73.0	磯部静江氏寄贈
13	いそべそうきゆう 磯部草丘	かきようせいりよう 夏暁清涼	昭和33(1958)年	紙本着色・額装	66.0×71.0	磯部静江氏寄贈

* 作品保護のため、会場内の温度・湿度、照度を調整して展示しています。

【次回予告】 「描かれた植物」 平成30年6月30日(土)～7月29日(日) 日本画のコレクションより植物を描いた絵画をご紹介します。